

平成22年11月1日

第80号

関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



池ノ岳から平ヶ岳山頂を望む（新潟県魚沼市）

（撮影者：中越森林管理署 枝澤 修）

木材の有効活用と低コスト作業システムに向けて

森林整備部 販売課

私と国有林 「日本でいちばん人が訪れる国有林」

高尾山グリーン・サポート・スタッフ 宮入 芳雄 氏



鉄製コンテナを利用した林地残材の集荷

関東森林管理局では、木材の有効活用に向けた取り組みの一環として、「国有林材の安定供給システム販売」を活用し、これまで林地に放置されていた残材をバイオマス燃料や製材工場の乾燥施設の燃料などに活用するため、昨年度に引き続き試行的な販売を実施しています。

本年度は、昨年度実施した福島県内の磐城、福島、棚倉森林管理署に加え白河支署の4署で取り組むこととし、約3.1千立方メートルの販売を予定しています。

木材の有効活用への取り組み

木材の有効活用と低コスト作業システムに向けて

森林整備部 販売課



移動式チッパーの実演

また、本取り組みの普及及び効率的な実施方法を目指し、8月26日、磐城森林管理署において、現地検討会を開催し約50名の参加がありました。検討会では、磐城森林管理署で現在進めている鉄製コンテナを利用した林地残材の集荷方法の作業システムや移動式チッパーによりチップの積み込みなどを実演し、関係者（福島県、森林組合、林業事業者等）との意見交換を行いました。

林地残材の活用については、バイオマス燃料や火力発電所での混焼原料として、期待が高まっています。



現地検討会

また、昨年12月25日に策定された「森林・林業再生プラン」においても、10年後の木材自給率50%以上を目指し、その検討事項の中にも盛り込まれています。

今後も、試行を繰り返しつつ林地残材の有効活用に向けた効率的な作業システムの構築に取り組んでいくこととしています。

低コストで壊れにくい路網の普及

平成22年10月25日、群馬県みなかみ町の国有林において、低コストで壊れにくい路網の作設技術の向上と普及を目的とした現地検討会（利根沼田環境森林事務所及び利根沼田森林管理署主催）が、林業関係者58名が参加し開催されました。

当日は、高性能林業機械を使用した人工林間伐の伐出作業を行うため



作業路作設の実演

の低コストで壊れにくい作業路網の作設について、関東森林管理局担当企画官からの説明の後、講師をお願いした四万林業協同組合岡本氏による作業路作設の実演と参加者が作設した作業路について指導がありました。

路網検討会の終了後には、林業・木材製造業労働災害防止協会群馬県支部によるかき木処理についての実演指導、赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長による、「赤谷プロジェクト」についての説明を実施するなど、多彩な内容で参加者からは、「また、是非やって欲しい」との意見が出るなど有意義な検討会となりました。

なお、本年度は15の署等において約65kmの低コストで壊れにくい路網を作設することとしており、今後も効率的な作業システムの実現に向け簡易で丈夫な路網整備を推進していくこととしています。

高尾の森から 10月の行事

高尾森林センターは、年間利用者約250万人に及ぶ高尾山一帯の国有林を活動の場として、首都圏を中心とした国民の皆さんに森林・林業についての理解や知識の普及を図るため、森林教室・体験林業等の各種イベントの実施や庁舎内の展示室などを利用して森林の情報提供などを行っています。

イベントには、親子自然観察会など公募で行う「公募イベント」と、小学校等からの依頼に基づいて行う森林環境教育などの「依頼イベント」を行っています。

10月は、屋外の活動に適している



伐採の指導(ロープは方向を決めます)

ということもあり、例年、沢山のイベントを行っており、「公募イベント」は2回70名の参加があり、「依頼イベント」については、12団体、延べ699名に森林教室や職場体験学習などを行いました。

間伐体験では

10月1日(金)に行った七国小学校の森林教室では、森林の働きや、その手入れの必要性などを説明した後、間伐体験を行いました。

当日は、前日までの雨により歩道等がぬかるんでいるため、特に足元の確認などを注意するように説明した後、実際に子供たちに鋸でスギを切ってもらいました。

子供達は、不安定な足場や斜面に驚いていましたが、徐々にコツをつかみ切り倒していました。



切ったばかりの木は重たい!

その後、間伐した木を森林ふれあい館に運び、丸太切り体験を行いました。

間伐作業を終えた子供達からは、「急斜面で怖かったけど面白かった」「切った木は思ったより重かった(水を沢山含んでいる)」などの感想がありました。

今後もイベントの際は、安全に体験してもらえように、事前準備や打合せを大事にしていきたいと考えています。

講義とSIT

10月7日(木) 松ノ木小学校の森林教室では、「森林と水の関わりについて」の講義を行いました。

講義の中の一工夫として、依頼のあった小学校近くの川や公園をカメラに納め、パワーポイントに組み込み、子供達の反応を期待しながら話



公園の奥に校舎が!

を始めます。

「地下水が湧き出て公園の池となり、更にその池から流れ出て川となり・・・」子供達が少しザワついてきます。「気がつくのが遅い!君たちの学校のそばだよ!」と駄目押しします。これは、子どもたちの関心を引くためのテクニクです。

身近なことから自然を理解していただけるよう心がけ、子供たちが学校に戻り、登下校の時に川を見るたび「地下水なんだ!」と感じてもらえることと思います。

卒業生によるサポート

イベントの実施に当たっては、平成21年度森林カレッジ(公募イベント)の卒業生有志が「少しでもセンタ―に恩返しをしたい」との趣旨でボランティア団体を立ち上げ、子どもたちの安全確保などのサポートをして頂けるようになりました。

今後とも応援をいただきながら、意義のあるイベントを実施していきたいと考えています。

11月は、地元の「もみじまつり」への出展や「高尾山秋の親子観察会」などの公募イベント、ボーイスカウト東京連盟からの依頼イベントなどを行います。

より多くの方々に森林の大切さや色々な楽しみ方があることを伝えて行きたいと思っています。

第34回 全国育樹祭

樹の息吹 育ててつなぐ 地球の未来

2010.10.3 群馬県 開催



式典の様子(地元沼田市の天狗みこし)

10月3日(日)、第34回全国育樹祭が群馬県の沼田市・川場村にまたがる県立森林公園「21世紀の森」で開かれ、県内外から参加した約6千人が森林を守り育てることの大切さを再認識しました。

当日は、朝から霧雨が舞っていましたが、式典が始まる頃には雨も上がり、時折晴れ間が覗くようになりました。

ご臨席された皇太子殿下が「森林を守り育てる活動の輪が、ここ群馬



パネル展示と空中写真の立体視体験

から全国へ、世界へ広がり、そして未来へと継承されていくことを切に願います。」とお言葉を述べられ、その後、12年前に現地で行われた植樹祭で天皇陛下が植えたスギを枝打ちし、皇后さまが植えたヒノキに肥料をまかれました。

式典では、森林保全などで功績のあった団体、個人の表彰が行われ、その後、地元の小中学生らによる、群馬県の四季と自然との共生を演じたメインテーマが披露されました。

大会宣言後、地元沼田市の「天狗みこし」や「老神蛇みこし」など郷土色溢れるアトラクションがフィナーレを飾り、育樹祭は盛大に幕を閉じました。

関東森林管理局では、利根沼田森



しおり作り

林管理署・赤谷森林環境保全ふれあいセンターと共同で展示ブースを設け、パネル展示、ストラップづくり・しおり作りを行いました。

朝早くから集まった参加者は、次々と局コーナーに足を止め、しおりやストラップづくりに熱心に取り組んでいました。更に林業関係者からは、イベントの企画方法を尋ねられるなど、対応に追われた1日でした。また、国有林のパネル展示コーナーでは、参加者からの質問や国有林に対する意見などが寄せられました。

このような機会を捉え、国有林のPRに努めている成果が、各コーナーとも常時満員となり、当局の取り組みを全国の林業関係者や多くの一般の方々知っていただく大変良い機会となりました。(指導普及課)

第2回国有林野事業見学会を開催 「低コスト路網」の見学と「RNDの道」を歩こう！

計画部 指導普及課

10月22日(金)、指導普及課では、広く一般の方々に当局での取り組みを理解していただくため、第2回国有林野事業見学会を、群馬県安中市松井田町の国有林で実施しました。

今回は、地球温暖化対策として、森林吸収量を確保するための間伐や長期的に停滞している林業の採算性の回復を図るため、繰り返し使用できる低コストで壊れにくい路網を整備し、作業効率の高い高性能林業機械を使用して伐採・搬出する様子を見学していただきました。

参加した14名は、初めて見る林業機械に歓声をあげながら熱心に説明に聞き入り、機械を操る若いオペレーターに質問をしたり、伐採後のヒノキの切り株を触っては「いい香りがする」と森林とのふれあいを楽しんでいました。

また、「よく広葉樹はいって言われるけど、やっぱり針葉樹・広葉樹



低コスト路網の説明



めがね橋の下で

が揃ってこそ森林よね」等、当局が目指す針広混交林など多様な森林づくりを理解していただくことができ、充実した見学会となりました。

昼食後、廃線となった信越線跡を遊歩道とした「アプトの道」を散策し、横川・軽井沢間553畧の標高差をいかにして越えるかに挑んだ先達の魂に触れたり、旧熊ノ平駅の風景から作詞されたという唱歌「もみじ」の歌詞から、100年前の森林に思いをはせるなど、明治時代にタイムトリップしたような散策をすることができました。

毎回好評をいただいている事業見学会ですが、それに甘えることなく、今後も参加者の意見を取り入れ、よりわかりやすい見学会を企画し、多くの方に国有林野事業を理解していただけるよう努力していきたいと思

(指導普及課)

第50回

治山研究発表会に参加

森林整備部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が9月27日・28日に東京都代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、各森林管理局、道府県、コンサルタント会社等が参加しました。

発表は「治山計画、地すべりの取組」「斜面・溪流対策等の取組」「緑化、木材利用の取組」「森林造成・整備、環境への配慮の取組」の4つのセクション別に計46課題が行われました。

当局関係では、「治山計画、地すべりの取組」の中で、大井川治山センターの相澤技術専門官、井上調査係長により、「ホーキ難大規模崩壊地の施工方針と実行について」及び上越森林管理署の斎藤治山第一係長と国土防災技術(株)との共同研究による「航空レーザー測量を用いた



発表をする相澤技術専門官



溪流環境の復元に向けたパネル展示



上越署と国土防災(株)の共同発表

治山全体計画策定事例について」の2課題を発表しました。
また、溪流環境の復元に向けた治山事業の取組として、治山ダムの中央部を撤去した茂倉沢治山事業もパネルにより紹介しました。

私と国有林

「日本でいちばん人が訪れる国有林」

高尾山グリーン・サポート・スタッフ 宮入 芳雄



こんな幻想的な森を歩くこともある

フランスのタイヤメーカー「ミシュラン」が発行するガイドブック「ミシュランガイド」で最高ランクの三ツ星を獲得し、全国的に有名になった高尾山ですが、東京都民にとっては身近に行ける自然豊かな観光地として、元々有名な場所でした。

高尾山は標高599.47m、600年以上の歴史を持つ真言宗「高尾山薬王院有喜寺（一般的には略して、「薬王院」と呼ばれている。）」によって長年管理されてきた信仰の山



秋の行楽シーズンは通勤ラッシュ並み

です。昭和42年に「明治の森・高尾国定公園」に指定され、東海自然歩道の東側の出発点にもなっています。この山の森は東西に走る尾根の北側と南側で植生が違い、南側は暖温帯のカシなどの常緑照葉樹林、北側は冷温帯のイヌブナやコナラなどの落葉広葉樹林。そのため、シダ類も含めると1500種類以上の植物が分布しています。季節ごとに見所があり、四季を通して訪れる人々は年間250万人を上回っています。

そんな高尾山域での国有林は約1200ヘクタール。日本で最も人が



「通行止めのお知らせ」チラシを配る

訪れる国有林、と言っても良いでしょう。そこを4名（内3名が森林インストラクター）のグリーン・サポート・スタッフ（森林保護員）が年間を通してパトロールを行っています。業務内容は、「登山道周辺の危険木の伐採処理」「植物の盗掘防止やマナー向上の指導」「動植物の生息、生育状況の確認、調査」等、多岐に渡りますが、一番重要なのが一般ハイカーや観光客への対応です。ハイキングコースの案内や相談、植物解説など様々な事に対応します。特に最近では「高尾山はパワー・スポット」で、恋が成就される場所という事になっていくらしく、若い男女の数が増えました。多くは山歩きの知識を持っていない若者たちです。当然のように道標は見ません。だから道を間違える。よくあるのが、自分たちは駅に向かって帰っているつもりで、



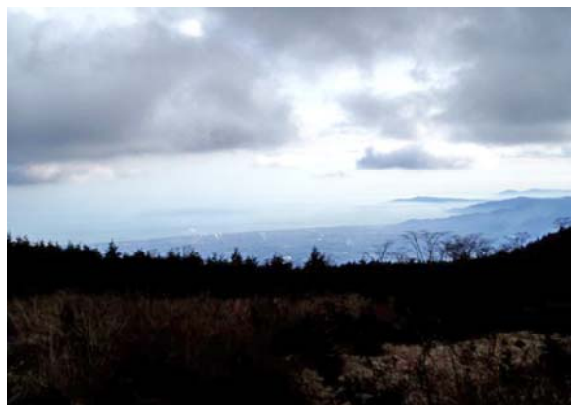
植物の記録も大事な仕事

反対方面の道を歩き出すケース。夏期なら良いが日没が早い冬なら命にかかわります。そこで秋から冬の時期の土、日、休日の午後は高尾山頂下で待機し、迷っているような観光客（だいたい服装で分かります）に声を掛け、行き先を確認するようにしています。また午後3時を過ぎるとハイカーにも声を掛け、装備を確かめたり、安全に下れるコースを指導したりもします。

高尾山国有林は、平成18年から3年掛けて行われた高尾山・小仏城山間のメインルートでの大規模な間伐で、景観が良くなり、益々多くのハイカーに歩かれています。我々もこの業務に就いて4年が過ぎ、ハイカーから声を掛けられる事も多くなりました。嬉しいことです。

森づくりの最前線

静岡森林管理署 表富士森林事務所 森林官 松熊 まつぐま 邦友 くにとも



管内から望む田子の浦



西臼塚遊歩道周辺の森

私の勤務する表富士森林事務所は、富士山の静岡県側、標高800㍍から3200㍍の間に扇状に広がる富士山国有林約12,000㍍のうち、約3,700㍍が担当する国有林（以下、「管内」という。）で、管内には日本の道100選に選ばれた富士山スカイラインや富士登山の富士宮ルートを含んでおり、晴れた日には万葉集におさめられた山部赤人の和歌で有名な田子の浦が管内から望めます。

富士山は日本を象徴する山で、国内外から多くの人々が訪れます。特に最近では、富士山の自然を体感するレジャーとしての利用が増加しており、今年の夏山シーズン（7月1日～8月31日）の登山者は、全体で30万人を超え、管内の富士宮ルートについても8万人近くの利用者があります。

富士登山は、もちろん頂上を極め、ご来光を浴びるのも大きな目標ですが、富士山麓の遊歩道を利用した森林散策という楽しみ方もあります。管内には、いくつもの遊歩道が整備されており、特に私のイチオシは、西臼塚遊歩道とその周辺の森林です。この一帯は、ブナ・ヒメシャラ・カエデ類といった自然の森から、ウラジロモミ・ヒノキといった人の手で育てた森まで多様な森林で形成されており、また、過去に富士山麓で噴火した跡地も見ることができる盛りだくさんの内容となっています。

業務面では、現在、「第4次富士森林計画の樹立・策定」という今後五年間の森づくりの方針を決定する作業を進めているところですが、その一環として管内の状況を把握する中で、全域にわたってニホンジカによる被害が目立ち始めたことが非常に気になります。

富士山周辺のシカは、平成18年度に静岡県が実施した調査によると約1万頭生息していると推定されており、現状においてはその数が減少する要因も見あたらないため、今後もニホンジカによる被害が拡大していくことが懸念されます。当事務所では、ニホンジカの被害対策として、木の幹に保護資材を巻くなど対応しているところですが十分ではなく、被害の拡大を防ぐために、頭数の調整といった積極的な対策が必要だと感じています。

現在、地元の猟友会などの協力を得て、管内を含む富士山麓南西地域において年間数百頭規模のニホンジカの捕獲を行っておりますが、被害の拡大を食い止めるまでにいたっておらず、今後は関係機関と、より緊密な連携をとってニホンジカと共存できる富士山の森林づくりの方法を考え、実践していきたいと考えています。



シカにより被害を受けたヒノキ



シカ被害対策として設置した保護資材

ひらがたけ 管内の百名山「平ヶ岳」



山頂と池ノ岳の間の湿原と燧ヶ岳



池ノ岳から玉子石へ向かう

新潟県魚沼市にある「銀山平」一帯は、江戸時代に発見された銀鉱山で大いに賑わった地で、わが国屈指の水力発電ダム湖である奥只見湖のほとりにあり、現在はキャンプ場やペンションが釣客や観光客を迎えます。

この銀山平から南方に直線で約15kmの山深いところに位置する「平ヶ岳」(標高2,141m)は、新潟県と群馬県の県境にあり、山頂が平らな独特の山容を呈しています。池塘の広がる草原とお花畑はまさに雲上の楽園です。

登山口は、只見川沿いの鷹ノ巣集落にありますが、アプローチが長く、登りで約6時間を要します。頂上手前の池ノ岳には姫ノ池など無数の池塘が点在し、その光景は圧巻です。ここから見る平ヶ岳は雄大で素晴らしく、苦労して来て良かったと思える瞬間です。

池ノ岳からは木道歩きとなり、程なく着く頂上は一面広大な草・湿原となっています。頂上からの眺めも素晴らしく燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、日光白根山などの山々が見られ、天候がよければ北アルプスや富士山も眺められるといわれています。

また、頂上から30分程のところには玉子石とよばれている大きな岩の上に丸い岩が乗ったような形の奇岩があります。

中越森林管理署は、平成元年に、この自然豊かな平ヶ岳周辺の国有林を、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存や学術研究などを目的として、「利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域」に指定(新潟県8,432ha)し、貴重な動植物の保護を始めとした自然豊かな森林の保全に取り組んでいます。

是非、雄大な湿原をもつ、風光明媚な平ヶ岳登山に挑戦してみたいはいかがでしょうか。きっとご満足いただける山です。
(中越森林管理署広報広聴連絡官)



玉子石

参加者募集

高尾山で炭焼き体験

様々な分野で「炭」が注目されています。そんな炭をあなたの手で焼いてみませんか。

実施日 平成22年12月4日(土曜日)
実施場所 八王子市高尾町 高尾山国有林(日影沢第二園地 炭焼き小屋)

募集人員 30名(応募者多数の場合抽選)
申込方法 必ず往復ハガキにて、イベント名「高尾山で炭焼き体験」及び参加者全員の①郵便番号②住所③氏名④年令⑤電話番号・返信面に宛名を記入のうえ、当センター「炭焼体験係」まで「応募ください」。

申込締切 平成22年11月18日(木)必着
参加費 500円(別途バス代・往復大人440円小人220円)

お申し込み・お問い合わせ先
高尾森林センター
〒193-0844 八王子市高尾町2438-1
電話番号(042)663-6000

<http://www.rinyuaff.go.jp/kanto/takao/index.html>



編集発行所 関東森林管理局
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159